



31 ポプラ 中川八郎

一面

明治四十四年(一九一三)

油彩・キャンバス

一一七・二×八〇・七

愛媛県出身の中川八郎(一八七七〜一九三三)は、十八歳で松原三五郎の天彩画塾に入門、小山正太郎の不同舎を経て、二十一歳のときに明治美術会創立十年記念展に出品、早くからその才能を開花させた。その翌年には不同舎で同門だった吉田博とアメリカへ渡ると、現地で作画を売ってヨーロッパへ行くための費用を工面し渡欧。それからさらにアメリカを再訪するなど、各地で現地制作と展覧会を繰り返しつつ、約一年半の外遊を経て帰国した。その余勢を駆って、新興の白馬会に対抗して、欧米旅行を共にした明治美術会会員らと太平洋画会を結成、中心的メンバーの一人となった。

四十四歳の若さで病没した中川は、その最期まで国内外での写生をもとにした風景画を発表し続けた。本作は明治四十四年開催の第五回文展に《造船場》、《高原の花》とともに出品されたもので、川岸に立つポプラ並木を描いている。ポプラは明治期以降に日本に移植されるようになった樹木で、おそらくこの風景も中川がアメリカやヨーロッパで見たものではないかと思われる。岸辺に生い茂る草むらを境として、実際のポプラと水面に映るポプラを上下対称に分割した構図に、太陽が翳り薄暗くなるなか風に吹かれる草木や水面の揺らめきを加えることで、見る者の心をざわめかせ、何かが起こる前のどこか不穏な空気を感じさせる作品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan